



【キャッチフレーズ】
笑顔・花・命

奄美市立大川小・中学校 学校だより大川



【校訓】
勉学・協力・根性

平成 30 年 6 月 14 日発行



身近にある宝



校長 前田浩之

学校の児童・生徒用玄関へのアプローチには、水辺をイメージした中庭があります。そこには池の周辺に奄美の杜（もり）の植物が植えてあるのを意識したことがあるでしょうか。大川に来て、学校に最初に足を踏み入れた4月、私はこの中庭の光景に目を奪われました。中学生の頃、林業をしていた父に連れられて入った山の中の、すごみさえ覚えた光景が、凝縮されてそこにあったからです。ヒカゲヘゴ、オオタニワタリ、モダマ、クワズイモ、どれも奄美を代表する植物たちです。食糧難を支えたソテツ、ツワブキもあり、大島紬の染めの原料、シャリンバイもありました。現在の校舎は平成4年に落成していますが、この中庭を設計した人は、よほど奄美の自然を愛していたのだろうと、勝手に想像してしまいます。中学生にどれだけ名前を知っているか尋ねましたが、残念ながらヒカゲヘゴとソテツぐらいしか分からないと答える生徒が大半でした。

小学生が田植えをした田の近くで、低学年用の小プールがビオトープ化し、たくさんのトンボを目撃しました。世界で一番小さなトンボ【八丁トンボ】もいるかもしれません。もしいたら、大きなニュースになると思います。

校門の前には大きなアカギが生えていますが、その周りを、毎朝たくさんの種類の蝶が飛んでいます。アゲハ蝶だけでも5種類を確認しました。野鳥の泣き声も6種類は聞こえてきます。目をこらし、耳を傾けると、こんなにも身近に奄美の自然の多様性を感じることができます。奄美の先人たちは、この雄大な自然と共に生き、敬意を払い、そして奄美の人特有の、優しさとたくましさを育んできました。奄美ファンを自称する人たちは言います。「最初は自然に惹かれて来た。今は人の温かさに惹かれている。」

残念なことに、今年の奄美の世界自然遺産登録はなさそうです。「奄美の自然は世界の宝物です。だから後世に残すように努力しなさい。」世界自然遺産に登録されるということは、そういう意味だと思います。しかし、奄美に住む住民がその価値に気づかなければ、保全は難しいでしょう。登録延期は、私たち奄美の住民が、あらためて宝物のような自然に囲まれていることを意識するよい機会だと思います。「まずは、子どもたちにこの自然の素晴らしさを教えていこう。大川は絶好の環境にある。」そう考える毎日です。ご家庭でも、虫や鳥、植物など、恵まれた自然を話題にして欲しいと思います。



写真で見る学校の様子

(5月中旬～6月上旬)

田植え(小学校)

宿泊学習



今年も黒米を植えました。田植え歌(?)の応援も!



みんなで協力し、テントを立てました。

5校集合学習(小1～4) 於:小湊小

不審者対応訓練(小中)



一年生はランドセルが大事なようで…



知根小 崎原小 芦花部小 小湊小のお友達と

職場体験学習(中学校)

いつもより真剣?

地区中体連結果報告

野球:朝日中と合同チームで出場

1回戦 6-1 北中学校

2回戦 0-1 伊仙・面縄・犬田布中学校合同

女子ソフトテニス:単独チームで出場

個人:迫地・中川ペア 準優勝

団体:予選リーグ敗退

6月後半～7月前半 主な行事予定

6/20(水)	中:地区中体連陸上大会
6/24(日)	PTA 主催球技大会
6/27(水)	中:期末テスト ～29日
7/5(木)	小:水泳大会 授業参観 学級 PTA
7/6(金)	大川中校区青少年健全育成連絡協議会
7/20(金)	終業式



黙々とかつお節の袋詰め (宝勢丸で)